2016年トレンド予測

小・中学生学び領域

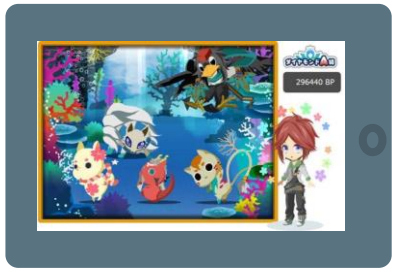
まだ、ここにない、出会い。
RECRUIT

『勉強サプリ』のご紹介

小・中学生向けオンライン学習サービス

PCサイト

タブレット端末での学習イメージ



小・中学生学び領域にみる2016年予測

キーワード

ICTを活用した新たな学び・生活のスタイルが増加
一人ひとりに合った学びと生活の最適なバランスを考える

スタディ・ライフ・バランス

- 2020年の大学入試改革で、**今の中学1年生以下の子どもたち**は、知識のみならず、知識・技能を活用する力や主体性が問われる。この能力を身に着けるためには、知識・技能の習得だけではなく、**多様な経験を積むことが必要**となる。

- **ICTツールを活用**して、知識のインプットを**効率的に行う**ことで生じた**時間を、新しい力を身に着けるための多様な活動に充てる**ことが可能となってきている。さらに**家庭や学校におけるICTツールを活用した新たな取り組み**も広がり始めた。

- 必要性の高まり・実現可能にする前提の整備状況を踏まえると、大人の「ワーク・ライフ・バランス」のみならず、子どもの「スタディ・ライフ・バランス」についても、保護者・子ども・学校が主体となり、**各々の価値観に合った最適なバランス**を考える時期に入っている。

ICT：Information and Communication Technology 情報通信技術

本発表の全体像と、キーワードの定義

スタディ
知識・技能

ICTツール
によって効率化

ライフ
スポーツ、遊びなど
多様な世代・環境の
他者との関わり、経験

ICTツールが
サポート

新たな学び
主体的に学ぶ姿勢
知識・技能を活用する力

ICTツールが
サポート

これからの社会で求められる「確かな学力」

学力の３要素

① 基礎的・基本的な知識・技能
② 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等
③ 主体的に学習に取り組む態度

出典：学校教育法　第30条第2項

学力の３要素からなる「確かな学力」

① 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度
(主体性・多様性・協働性)

② 知識・技能を活用して、自ら課題を発見しその解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力

③ 基礎となる「知識・技能」の習得

出典：中央教育審議会「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について(答申)」(2014年12月)より抜粋

「確かな学力」獲得についての識者の見解

これまでの教育では、答えが決まっているものに対して、いかに早くその解にたどりつくのかということが重視されてきました。しかし世の中では正解がない問題がほとんどです。

社会に出ると、多様な価値観の人たちと協調しながら、問題を解決し、新しい価値を生み出していく力が求められます。
その力を養うためには、知識や技能を習得するだけではなく応用する場、生涯に渡り主体的に学び続ける姿勢が重要になってきます。

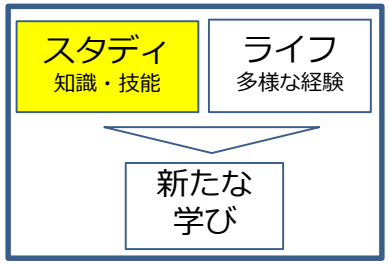
子どもたちは日常生活の中で、たくさんの実験をして、たくさんの試行錯誤をして、たくさんのことを学んでいます。
興味を持ったことを主体的に探求する、さまざまな世代・環境の他者とコミュニケーションをする。生活時間の中で、たくさんの経験を積むことが、今後社会で活躍する上でとても重要と言えます。

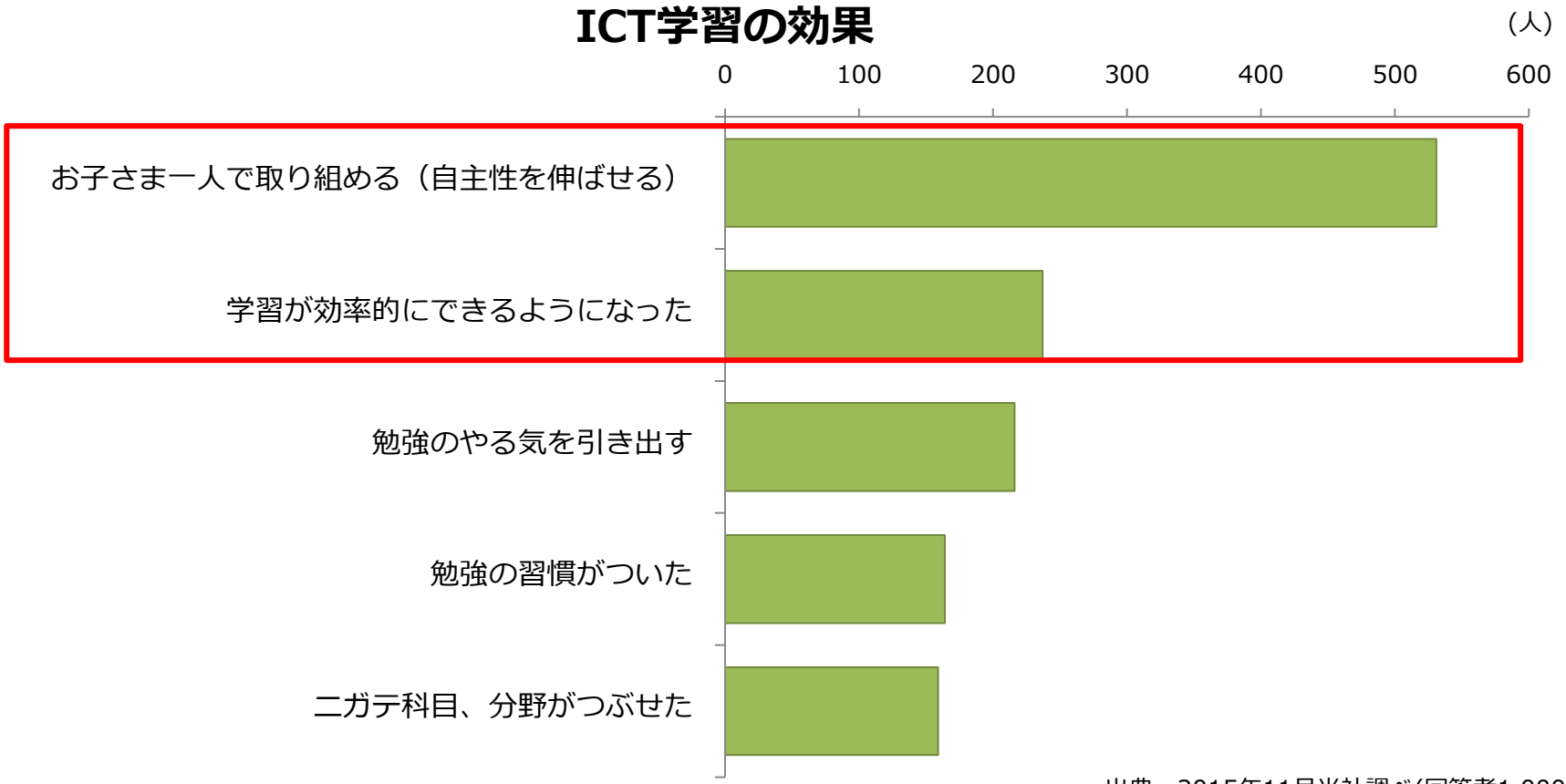
NPO法人CANVAS理事長
株式会社デジタルえほん代表取締役
慶應義塾大学准教授
石戸奈々子

知識・技能の習得だけではなく、主体的な探求や他者とコミュニケーションする時間を増やすことが必要

ICTによる知識獲得の効率化①: ICT学習の効用

- ICTツールの利用が、「主体性の向上」や「学習の効率化」に大きく貢献している。

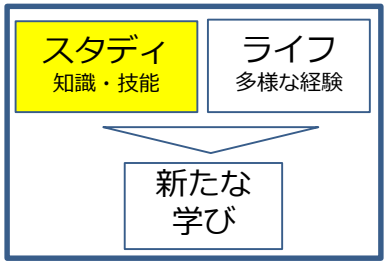


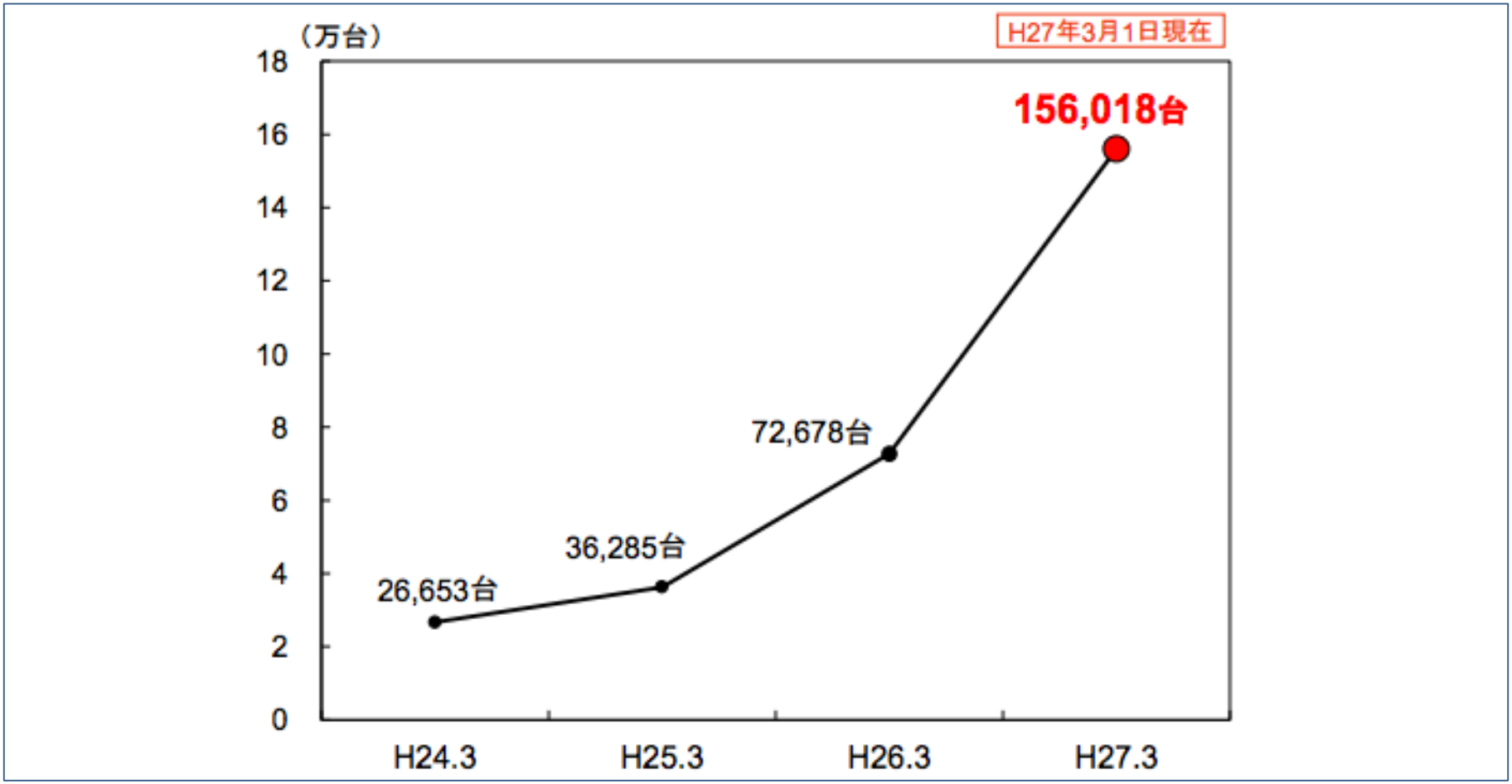


出典：2015年11月当社調べ(回答者1,000人)

ICTによる知識獲得の効率化②: インフラの急速な整備

- 2015年3月時点の学校でのタブレット端末導入数は
  前年度と比較して2倍以上に伸長。
- 文部科学省は2020年度までに１人１台環境の整備を目指している。

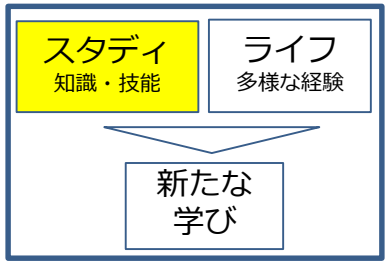




出典：文部科学省「平成26年度 学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果」(2015年10月)

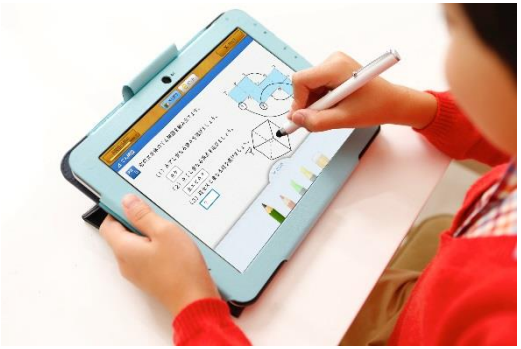
ICTによる知識獲得の効率化③: 家庭でのICT利用例

- 学習データが蓄積されることにより、わからない箇所がすぐに特定されるので、効率的な学習ができる。
- 保護者や指導者も、子どもの学習状況を知ることができるので、すぐにサポートできる。



通信教育「スマイルゼミ」の事例

- 解けなかった問題の反復学習や、避けがちな苦手科目も自然と取り組むように学習動線を組む
- 子どもが学習を終えると、保護者のスマホ・携帯電話に学習報告メールが届くので、リアルタイムに子どもの学習状況を確認できる
- 学習結果をもとに分析したほめるべきポイントを参考に、効果的な励ましを行える

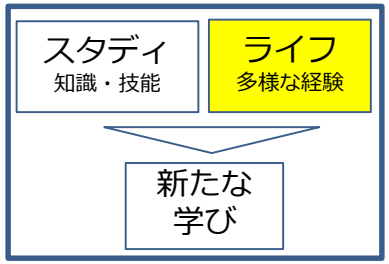


算数学習サービス「RISU」の事例

- 学習データを独自のBig Dataエンジンを通じて自動で集計・解析。つまづきや進捗スピードをすばやく把握
- 東大などのトップ大学生が一人ひとりの学習結果を丁寧にチェックし、タブレット端末へ最適なビデオレッスンを配信、励ましや保護者からも褒めるように促す等のコミュニケーションを幾重にも展開
- 平均の学習速度は教育課程の約1.7倍を記録。（小学校3年生の途中で、6年生の学習を全て終えるペース）

家庭内におけるライフ充実の事例①

- ICT学習は、保護者・子ども間のコミュニケーションにも好影響を与えている。

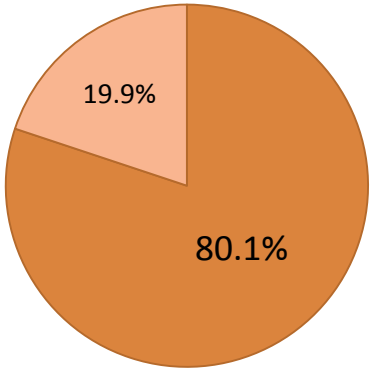


保護者・子どもの仲が深まったご家庭

- 宿題は真面目にこなしていたものの、ドリルを購入しても、面倒くさいと言って、ほとんど手を付けず、自主学習の習慣を付けられなかった。
- 勉強に関するコミュニケーションは、「勉強しなさい！」と叱ることが多かった。

- 今は一声かけるだけで、素直に学習に取り組み、終わると会話アプリに連絡がくるので、親としても嬉しい。

ICTが保護者・子どもに与えた影響

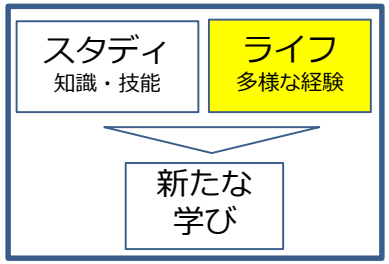


- タブレット端末で調べものをしている際に、わからない言葉を質問してきたり、宿題の内容に関する質問が増えた。
- 以前より長い時間をかけてよく話すようになった。

出典：教育スクウェア×ICT　保護者アンケート(2013年12月)、保護者インタビュー(2014年1月)

家庭内におけるライフ充実の事例②

- ICT学習は、いつでも、どこでも学習できるので、朝の時間や隙間時間に学習をすることで、他の時間を有効に使うことができる。



朝に学習し、放課後はスポーツをしたり、弟と遊んでいるY君

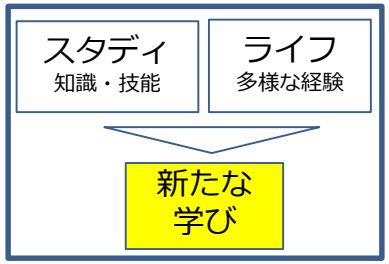
- のびのびと遊び、さまざまな人とのコミュニケーションを大切にしたかった。
- 行き帰りに時間を取られる塾には抵抗があり、ICT学習による朝学習を開始。

- 朝に勉強をすることで、放課後は時間を自由に使え、サッカーやバスケットボールの習い事をしたり、弟や友達と遊ぶ時間に充てている。
- 元々子どもの勉強を一緒に見たいタイプだったので、家庭内学習にすることで親子でのコミュニケーションも増えた。

学校現場での新たな学び実践の事例①

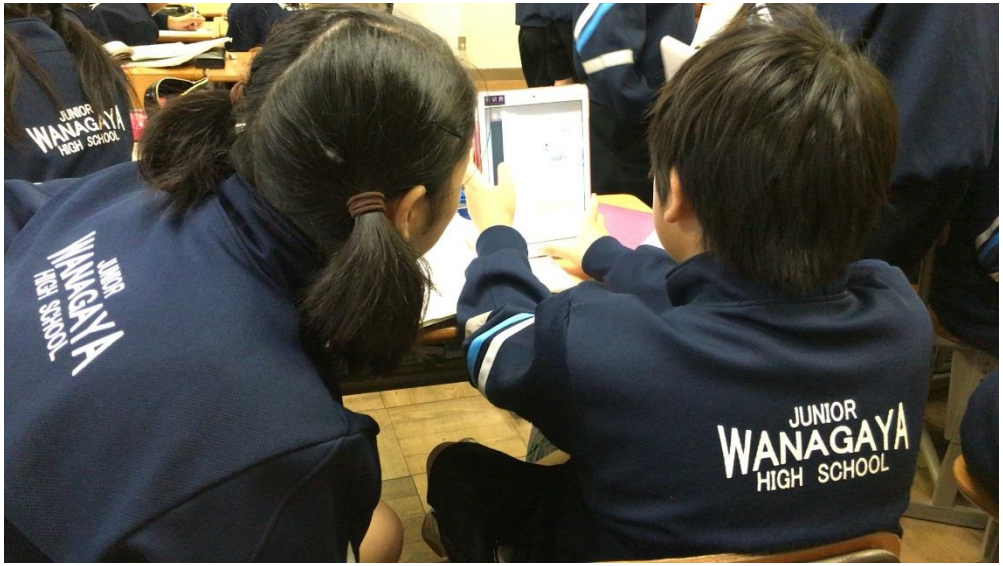
-松戸市立和名ヶ谷中学校-

- 学びに向かう「主体性の向上」と「コミュニケーションの活性化」に取り組んでいる。
- 生徒同士が教え合うツールとしてタブレット端末を活用。



担当の先生の声

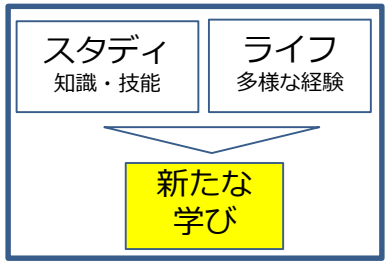
「生徒にとってどんな学習方法が一番適しているのかは、本人が一番よく知っています。友達同士で試行錯誤しながら、さまざまな学習方法を各自が探すようにしています。そのなかで、タブレット端末は生徒が自由に発想したり、インターネット上の情報を調べたり、互いのコミュニケーションを促進するツールとしてとても有用です。」



学校現場での新たな学び実践の事例②

-多摩市立愛和小学校-

- 総合的学習の時間を、プログラミングの授業に充てる
- 主体性の向上、コミュニケーション、論理的な思考力など
  プログラミング学習を通じて、新たな力を獲得できるように



担当の先生の声

「これまでのペーパーテストでは測れない、素晴らしい力を自然と発揮する姿に驚いています。90分間、集中力を持続させる姿に感動すら覚えました。

プログラミング授業を通して、論理的な思考力もそうですが、何よりも子どもたちが大人として生きる時代に、ロボットとの共存を考えた時、プログラミング言語の理解は、外国語を学ぶのと同じくらい必要なことだと感じています。」

小・中学生学び領域にみる2016年予測

キーワード

ICTを活用した新たな学び・生活のスタイルが増加
一人ひとりに合った学びと生活の最適なバランスを考える

スタディ・ライフ・バランス

- 2020年の大学入試改革で、**今の中学1年生以下の子どもたち**は、知識のみならず、知識・技能を活用する力や主体性が問われる。この能力を身に着けるためには、知識・技能の習得だけではなく、**多様な経験を積むことが必要**となる。

- **ICTツールを活用**して、知識のインプットを**効率的に行う**ことで生じた**時間を、新しい力を身に着けるための多様な活動に充てる**ことが可能となってきている。さらに**家庭や学校におけるICTツールを活用した新たな取り組み**も広がり始めた。

- 必要性の高まり・実現可能にする前提の整備状況を踏まえると、大人の「ワーク・ライフ・バランス」のみならず、子どもの「スタディ・ライフ・バランス」についても、保護者・子ども・学校が主体となり、**各々の価値観に合った最適なバランス**を考える時期に入っている。

ICT：Information and Communication Technology 情報通信技術